

議 事 録

■ 概要

会 議 名	第 1 回 敦賀市観光振興計画策定委員会
日 時	2025 年 10 月 3 日（金曜日） 13 時 30 分～15 時 50 分
場 所	人道の港敦賀ムゼウム 1 階研修室
出 席 者	別紙「第 1 回敦賀市観光振興計画策定委員会 出席者名簿」（出席 18 名、欠席 1 名）

■ 議事

討議内容	1 まちづくり観光部長あいさつ
	2 委員会設置要綱の説明 別紙「敦賀市観光振興計画策定委員会設置要綱」
討議内容	3 委員長及び副委員長の選出 委員【事務局一任】 全員【異議なし】 ※いずれも学識経験者 委員長：村上 和夫（立教大学 名誉教授） 副委員長：大谷 友男（富山国際大学 教授）
	4 観光振興計画の説明 (1) 策定のスケジュール等について（資料 1）事務局 (2) 現行計画の振り返りについて （資料 2）事務局 (副委員長) 拠点整備としてシェアサイクルのポートがどれだけあるかが利便性で大事 拠点の増設・使われ方について教えていただきたい。 (事務局) ポートは今年に入り 4 か所増設、台数も少しずつ増やしていく。駅から起 点に気比神宮・金ヶ崎周辺・気比の松原が主だった行動範囲、遠くは西浦半 島まで。 (事務局) 誘客数は目標通り達成、消費額を伸ばしていくためのご意見をお願いした い。 (委員) 福井県においても今年 3 月に新しい観光ビジョンを策定。入込客数ではな く量より質に目標転換し最重要指標として設定している。観光消費額を上 げるためには、宿泊客を増やすことが一番の近道、しかし開業後宿泊施設

	数部屋数が足りない。 (委員長) 宿泊を伸ばすと観光消費額は伸びるが、一方で物価の問題もある。 (委員) 目標値を掲げるには消費額しかないが、地域が潤うために地域の自給率を高め、地域でお金もまわり観光が潤う仕組みが大切。 (委員長) 経済効果を出すために乗数をどうだすか、地元にお金が回っていくしくみを持っているかどうかは重要。 (委員) 特産品や玄関口としての敦賀駅周辺の活用は大切。市民の意識は高まっているが、敦賀だけではなく県全体でインバウンドに力入れる必要あり。 (委員) 定量的評価は入込数・消費額、定性的な評価の調査では R6 開業後「魅力的な特産品・土産物があった」「地元の人ホスピタリティを感じた」とともに全国 5 位で初のランクイン。開業後かなり満足して帰っていただけていることがわかる。 (委員長) 実際街を歩いているときにどういう風に地元の方と観光客が接するかがすごく重要。 (3) 昨年度の調査結果について(資料3)事務局 (委員長) 観光客のターゲット設定とインバウンド客の状況、データを見てどのように考えられるかご意見をお願いしたい。 (委員) 福井は開業後関東からの比率が伸び悩んでおり、県としては関東新幹線沿線へのプロモーションを強める。 (委員) 敦賀は通過駅にすぎなく、駅前の活性化が敦賀のイメージに影響する。屋台ラーメンは人気があるが、駅前での飲食が少ない。東京からの入込は所要時間 3 時間超えるとどうしても鉄道が選ばれなくなる。 (委員) 車で来る人は増えているがいかに駅前にお客様に降りてもらうかが課題。 (副委員長) 関西からは JR を利用せず車で来ている。駅前は JR 玄関口でもあるのでアプローチの仕方切り分けも考えていく必要がある。 (委員) 関東からもビジネス客が増えている。嶺南観光地を周遊し敦賀に泊まっていただくプランなど、観光客に敦賀の魅力、立地の良さを知っていただくように取り組んでいただきたい。 (委員長) 駅の吸引力がまわりの観光地の吸引力に勝っているかということそうではない。ビジネスの吸引力は高いが、駅の周りに何を集積していくかが課題。 (副委員長) 駅はショールームであり、評価されれば街に出ていく。ビジネス客の評価口コミ、インフルエンサーや歩いている道中をいかに楽しませるかも大事。 (委員長) 年齢別での情報発信をどうしていくのか。シェアサイクルに GPS つけばどこを通ったかもわかるし、いろんなところで情報発信できる。このデータをいかにテクノロジーでかえていくのか。 (委員) 屋台ラーメンは人気だが、敦賀の特産である真鯛・フグの認知度が低い。 (委員) 敦賀も何かインパクトあるものを出せば伝わるのかと思う。敦賀は北関東
--	---

	長野をターゲットとして掘り起こしていく、敦賀を起点に関西へ行くことが攻めどころ。 (委員長) 敦賀を観光しつつ全体のネットワークをどう考えていくか、プロモーションを作っていくことが重要。高齢者は関西から車で来る方が多い、交通体系を注意して考えることもあってよいかと、敦賀を軸にみなさんで議論した方がよい。 (副委員長) 敦賀は何があるか見せ方楽しませ方をうまくすると大きく化ける可能性はある。ジャパン・レイル・パスは敦賀駅改札降りられるのでそのチャンスはあるのかと、消費の話にもつながるのではないかな。 (委員) 敦賀は確かにビジネス需要が高い。宿泊するので滞在時間が伸びチャンスでもある。すでに需要が起きており、今あるものをもう一度整理して、それを選択して集中的にやっていくことが一つの方法としてある。 (副委員長) ビジネス泊まるところも単価は低い、宿泊以外でいかに消費してもらうか消費の質の部分、いかに地元に流れるかも考える必要がある。 (委員長) ビジネスのお客がビジネスだけするのではなく、難しい言葉では「兼観光」という。働いている時間は1時間として後の時間は遊ぶわけなのでビジネス客も相当な可能性はある。 (委員) 観光スポットではないが、インバウンドの方が高い評価を出している特徴的な店舗がある。また、インバウンドの方から、山車会館をもっと歴史的にもそこをもっとアピールするべきと意見があった。敦賀から西にサイクリング含めて小浜線で行く、敦賀は必要な位置づけである。 (委員長) 属性別消費金額を見ると60代が一番高く、不思議—それよりも年齢が低い人たちの中央値・平均値を上げることが課題。その人たち向けのニッチな場所の伝え方が顧客推奨度に向けてつながるのではないかな。 (4) 次期観光振興計画のフレームイメージについて(資料4)事務局 (委員) 一つは計画でKPI・KGIを立てるが、観光はまちづくりにとっては手段。目標に住民の満足度までチャレンジしていてもよい。二つ目は嶺南全体のゲートウェイとしての強み、嶺南としてのベースになるような意味合いも加味してほしい。三つ目は朝型もしくは夜型の観光を今から少しでも準備していくことも大事。 (委員) 関西からのマイカー客、それともJR利用者を取り込むのか戦略を立てた方がよい。ターゲットがあれもこれもではよくわからないので、この5年は国内関西圏マイカーをターゲットにするとか、絞った方が敦賀ならではの良さがでるのではないかな。 (委員) 敦賀駅から歩きながら楽しみながら港・山車会館に行き、楽しめる街並みをテーマに作っていただきたい。 (委員) 夜観光にウェイトおいてもらうのもどうだろうか。夜のイベントなど夜の
--	---

	観光を楽しんでもらう。 (委員) 福井ドットコムへのアクセス数は爆発的に増えている、その中で敦賀の検索が抽象的になっているため、氏名検索していただけるようにがんばろう。 (副委員長) 観光振興計画する中で、敦賀がどんな街でありたいか、次のワークショップでも市民の方が思い描く敦賀のありたい姿、事業者との目線合わせ必要。 (委員) 敦賀に人を呼び込む視点は大事、敦賀がいかに便利な場所、いろんな所に行く出発点である、インバウンドにしても国内にしても敦賀がそういう場所であることをこの計画に入れこんでいきたい。 (委員長) 今日の議論に出てこなかった観光産業をどうしていくのか、企業がいてその周りに産業が成立している。産業目線にたった議論がもう少しあった方がよい。 5 その他 事務局 ■ワークショップ 10月24日(金)14時~敦賀市役所 ・委員の所属企業から2~3名程度、若手の皆様現場で活躍されている方に参加をいただきたい ・当日は立教大学庄司先生の基調講演も開催 ■第三回策定委員会 12月中旬目途に開催 ・今月中に日程の連絡予定
--	--